

医療と内観 (第十七回)

富山市民病院精神科

吉 本 博 昭

一期一会の心

トム・ハンクスが主演しアカデミー賞六部門を受賞した「フォレスト・ガンプ 一期一会」を視聴されたことがありますか。心身のハンディキャップを負ったガンプが、数奇な運命をたどる話で、走ることに目覚め、フットボール選手で活躍してケネディ大統領から激励され、軍人としてベトナム戦争に出征してその功績で大統領から栄誉勲章を贈られ、卓球選手となり世界選手権大会に出場、そしてエビ採り船の船長になり大成功をおさめたアメリカン・ヒーローの話である。ここで疑問なのは、邦題の副題と

してなぜ一期一会が選ばれたのでしょうか。

一期一会（いちごいちえ）を調べると、二つの説明があり、一つは茶会に臨む際には、その機会は一生に一度のものとして心得て、主客ともに互いに誠意を尽くせ、の意で一生に一度だけ出る茶の湯の会。もう一つは、一生に一度だけの機会で、一般には後者の意味がよく使われます。

この語句は、井伊直弼による茶道の奥義を著した「茶湯一會集」の巻頭に出てくる言葉で、後世に茶道から離れて人生の名訓となった訳ですが、単に一生に一度だけの機会という意味だけでなく、その裏に誠心を傾けて物事や人生への取り組みが隠れているのではと思うのです。その意味では、ガンプが素直な心でその時、その時の機会を誠心をこめて生き抜いた生き様に感動して副題を加えられたのだと思います。

さて、北陸で定期的開催される通称「さわやか会」の席で、北陸内観研修所の長島正博先生より、森川りうについて聞く機会がありました。森川りうは、内観の創始者、吉本伊信の妻

のお母様で、内観の求道者でもありました。吉本伊信は、もともと内観が深い人は森川りうと述べています。このりうが内観と出会い、まさに一期一会の心で生き抜いた人ではと思ったのです。りうの没後にみつかった、雑記帳に書き残された「道のうた」というのがあります。一文を紹介しますと、

これから通る

今日の道 新しい道

通りなおしのできぬ道

苦しいことから逃げていると

楽しいことから遠ざかる

(中略)

ああして

こうして

計画満点

実行せぬは玉に傷

(中略)

豊かだから与えるのではない

与えるから豊かになる

笑顔でお早う

感謝でお休み

希望と感謝と反省の日を重ねつつ

我が生涯を意義深く

紙面の都合で全文を紹介できないのが残念ですが、平易ながら内観の神髄が書かれています。素直で誠意を持って生きたいと考えているのですが、それに合致した行動がなかなかとれないのです。私のような人間には、りうやガンプのような生き方は難しそうです。

最後に、私の診療場面で一期一会の心が取り入れられているかといえますと、五分診療になりがちな日常医療の中では不十分です。ただ、いつもという訳にはいきませんが、患者さんや家族の方にその心で臨まなければならぬ機会を見逃さない、そんな医師になりたいと思うこの頃です。